

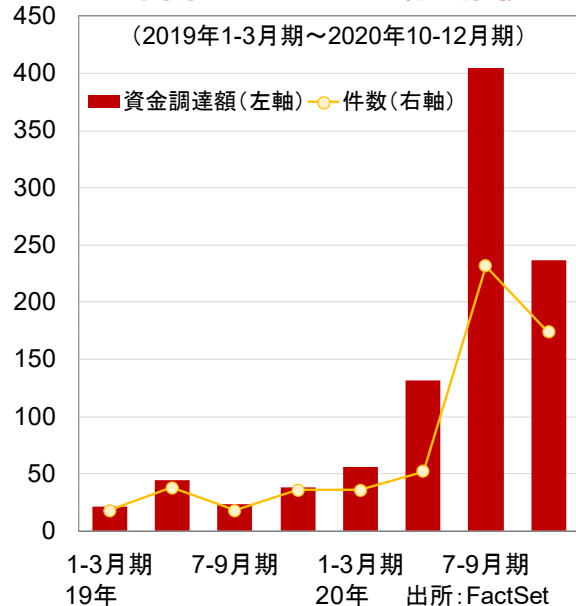
米国で急増した“空箱”SPACの上場 ～赤字ながら、高い将来性が期待される企業の公開を促進～

米国では、自らは事業を営まず、未公開企業の買収などを目的とする“空箱”のようなSPAC(Special Purpose Acquisition Company: 特別買収目的会社)の株式上場が2020年に急増しました。その資金調達額は前年の6倍強の約830億米ドルと、従来型のIPO(新規株式公開)の約900億米ドルに迫る規模となりました。

SPACは、調達資金を2年以内に他社の事業の買収などに使うことを原則として、株式を発行します。そして、有望な未公開企業などを見つけると、これを買収し、その買収先が存続企業、つまり、最終的な上場会社となります。高い将来性が見込まれるビジネス・モデルや商品などを擁する未公開企業は、SPACに買収されることにより、IPOに伴う手続きや時間を省き、より簡単に上場することができます。一方、投資家は、有望な未公開企業などを発掘する目利きに期待して、SPACに資金を投じます。なお、SPACの設立主体は、著名投資家やベンチャーキャピタルなどが中心で、ソフトバンクグループ傘下の投資ファンドなども名を連ねています。

SPACの急増や堅調なIPOを背景に、創業間もないような赤字企業の上場が増えると思込まれます。赤字企業の場合、EPS(1株当たり利益)がマイナスであるため、株価水準を評価する際にPER(株価収益率)を用いることができません。そこで、利益の代わりに売上高に注目し、当該企業の株式時価総額を年間売上高で割ったPSR(株価売上高倍率)がよく用いられます。2010年にIPOを行なった、米EV(電気自動車)大手テスラを例にすると、PSRは足元では24倍強と高水準で、業績に対する評価より、将来への高い期待が株価に反映されていることが示唆されています。なお、PSRもPERと同様、あくまで相対評価の指標の1つに過ぎませんが、同業他社比較や水準の変化など、PSRを有効活用することにより、投資判断の一助になると考えられます。企業の上場が加速すれば、投資機会が広がる反面、玉石混交の度合いも強まる可能性があり、銘柄の見極めが一層重要となります。

(億米ドル) **米国でのSPAC上場の推移**



(米ドル) **ご参考: テスラの株価と主要指標の推移**



※ 記載の銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

※ 上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。